



▲開港が間近となった新北九州空港（2005年10月撮影）

新北九州空港 ～2006年3月16日開港～

新北九州空港は、北九州都市圏を中心とした航空需要に対応して拡張が困難な現空港に替わり、大型ジェット機の就航が可能な新設空港として計画。1994年の着工から12年経った今年の3月16日に開港する。

新空港は、航空機騒音の影響が小さいといった海上空港の特長を生かして、21時間の運用でスタート。これにあわせて、早朝・深夜の定期便の就航が予定されている。新空港の開港は、北九州都市圏の人びとの航空交通の利便性が向上するだけでなく、地域の経済に良い効果をもたらすものと期待されている。



▲北九州は、本州や九州各地とつながる高速道路網やフェリーの基地もあり、交通の結節点となっている。新空港の開港により、さらに交通のネットワークが強化される。また、北九州は、鉄鋼や自動車産業などの集積がみられ、これらの産業を通じてアジア諸国との関係も深い地域である



(2005年12月撮影)



▲新北九州空港は、現空港の沖合7kmの地点に人工島形式で建設を行っており、長さ4,100m、幅900m、総面積が373haである。そのうち、空港用地の面積は約160ha、滑走路をほぼ南北方向に配置し、2,500mの延長を有している。エプロンは開港時に4バースを整備する。供用後の需要に応じて拡張することも可能である。新空港の整備は、2005年10月までに滑走路などの基本施設の舗装工事を終え、その後は、ターミナル地区の道路・駐車場工事がメインとなっている



▲港湾事業と連携し、埋込材には浚渫土砂を用いた



▲浚渫土砂の投入が完了した直後（軟弱な埋込地盤の改良が技術的に最大の課題となった）



▲ドレーンの打設（地盤改良は、プラスチックボードドレーンを採用した。総延長は1万8,000kmにも及ぶ）



▲開港時のエプロンは、大型ジェット機用2バース、中型ジェット機用2バースを整備する



▲滑走路は、2,500m。2005年11月からチェックフライトが始まった



▲ターミナルビル前の道路・駐車場の工事は開港直前まで続く



▲海上に延びた進入灯。着陸帯では芝が芽吹いてきた

(写真・資料提供：国土交通省 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所 <http://www.kitaqport.go.jp>)